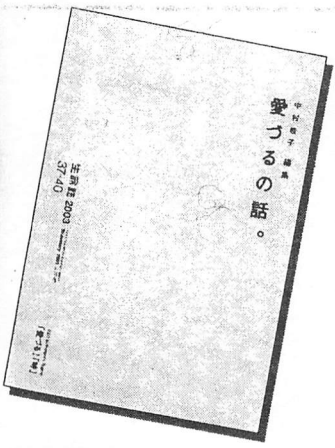
2004年
Sports medicine 7月号

Topic Scanning

Books



■『愛づるの話。』
中村桂子編集、B5判　178頁、JT生命誌研究館発行、新曜社発売（03-3264-4973）、2004年5月1日刊、1600円

『季刊　生命誌』をカードとWebで発行し、最後にまとめる。これはその2冊目。編集の中村さんは、大阪府高槻市にあるJT生命誌研究館（10年前に創設）の館長である。東京大学理学部化学科の出身で、生命科学が専門だが、生き物の歴史とでもいうかBiohistory（生命誌）という概念を打ち出し、言論活動も盛んに行っておられる。

さて、この号のテーマは2つ。「愛づる」と「時」である。前者は中村さんとの対談が4つ。哲学者の今道友信氏との「讃美と涙が創造の源泉」、生物学者で前JT生命誌研究館館長の岡田節人氏との「生物学のロマンとこころ」、美学・美術史が専門で京都大学大学院教授、同大学附属図書館館長の佐々木丞平氏との「生を写す視点」、生命基礎論（複雑系）の金子邦彦氏との「生命――多様化するという普遍性」である。

「時」のほうは、「時を刻むバクテリア」（岩崎秀雄）を始め9つの論文で構成されている。最後にScientist Libraryというタイトルで、本庶佑氏ほか4人の科学者の生い立ちや研究内容が興味深く紹介されている。

柔らかい知性というべきか、「蟲愛づる姫君」から「愛づる」